

会 議 録

会議名		令和元年度 第 1 回相模原市障害者自立支援協議会		
事務局 (担当課)		相模原市社会福祉事業団 障害者支援センター松が丘園 電話 042-758-2121		
開催日時		令和元年5月28日(火) 午後3時～午後5時		
開催場所		障害者支援センター松が丘園3階・研修室		
出席者	委 員	出席 12人 欠席 6人		
	その他	神奈川県共生社会推進課 1人		
	事務局	9人 市：障害政策課長 他4人 社会福祉事業団：生活相談課長 他3人		
公開の可否		☒ 可 ☐ 不可 ☐ 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 委嘱状交付 2 委員及び事務局職員自己紹介 3 議 題 (1) 会長及び副会長の選出について (2) 令和元年度協議会の体制について (3) 令和元年度の活動内容について 4 その他 5 閉 会		

令和元年度 第1回相模原市障害者自立支援協会委員名簿及び出欠状況

No	区 分	所属・職	氏 名	出欠
1	障害者等関係団体	相模原市障害福祉事業所協会 会長 (やまびこ工房 施設長)	なかじま ひろゆき 中島 博幸	欠
2		相模原市障害福祉事業所協会 総務 (社会福祉法人らっく)	すずき すみえ 鈴木 純恵	出
3		相模原市障害福祉事業所協会 総務 (くりのみ学園 施設長)	いまい やすのり 今井 康雅	欠
4		相模原市障害者地域作業所等連絡協議会 会員	にしむら さぶろう 西村 三郎	欠
5		(福)相模原市社会福祉協議会 福祉推進課長	たどころ まさし 田所 雅	出
6		相模原市民生委員児童委員協議会 常任理事	さが じゅんじ 佐賀 淳司	出
7	指定相談支援事業者	橋本障害者地域活動支援センター ぷらすかわせみ 施設長	なかたに まさよ 中谷 正代	出
8		子ども相談支援リボン (NPO法人ワンダートンネル理事長)	ちや ふみこ 千谷 史子	出
9	障害者等及び その家族	(特非) 相模原市障害児者福祉団体連絡 協議会 副会長	はねだ ひさし 羽田 彌	出
10		(特非) 相模原市障害児者福祉団体連絡 協議会 理事	かたおか かよこ 片岡 加代子	出
11		(特非) 相模原市障害児者福祉団体連絡 協議会 理事	まつばら みちこ 松原 充子	欠
12	保健・医療関係者	相模原市医療ソーシャルワーカーの会 (北里大学東病院医療ソーシャルワーカー)	だいなか たく 提中 拓	欠
13	教育関係機関の職員	神奈川県立相模原中央支援学校 総括教諭	みもり よしのり 三森 吉徳	出
14		教育局学校教育部学校教育課長	しのはら まこと 篠原 真	出
15	関係行政機関の職員	健康福祉局福祉部障害政策課長	あしの たく 芦野 拓	出
16		健康福祉局福祉部精神保健福祉課長	すずき まさふみ 鈴木 雅文	欠
17		こども・若者未来局陽光園所長	おかだ よういちろう 岡田 洋一郎	出
18	学識経験者	田園調布学園大学 教授	むらい ゆういち 村井 祐一	出

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(◎は会長、○は委員、■は事務局の発言)

1 委嘱状交付

代表 鈴木委員へ交付

- ・健康福祉局福祉部障害政策課 芦野課長より挨拶

2 委員及び事務局職員自己紹介

3 議 題

(1) 会長及び副会長の選出について

委員の互選により、村井委員が会長に、中島委員が副会長に選出された。

(2) 令和元年度協議会の体制について

事務局より、昨年度までの取組の中から見えてきた課題に対応するため、今年度から体制を見直したこと、見直し結果に合わせて相模原市障害者自立支援協議会設置要綱を改正したことを説明した。

主な見直し内容は以下の3点

- ・ 相談支援事業所等連絡調整部会及び個別支援検討・連絡会を地域課題調整部会及び区課題検討会へ変更した
- ・ 区課題検討会には相談支援事業所だけでなく、他職種の支援者が参画できるよう変更した
- ・ 相談支援技術向上部会を人材育成部会へ変更し、障害福祉に携わる事業者等全体の人材育成について検討できるよう変更した

○ 地域課題調整部会ではどのようなことを行うのか。

■ 区課題検討会で検討された地域課題について、当該地域特有の課題なのか、市域全体の課題なのか、また、課題への対応方法として施策への反映させるのか、あるいは別の形で解決できるのかなど、整理・集約することを想定している。

(3) 令和元年度の活動内容について

事務局より、各部会の協議事項、役割、構成員について説明した。地域課題調整部会については、平成27年度、青年期支援体制検討プロジェクトチームを立ち上げ、16歳～18歳までの支援体制について検討し、福祉と教育の連携をテーマに研修実施したことで得られた成果も大きいことから今後も更に継続することを事務局から提案し、了承された。

また、日中サービス支援型のグループホームの活動報告を今年度より協議会の役割に加えることを事務局より説明した。

○ 事務局が想定している地域課題について、具体例をあげてほしい。

■ 過去には、特技を活かしたいという障害者の意向を受けて、地域の方と協力して畑のボランティアに従事し、収穫した作物を児童養護施設等へ届ける活動につながったことがある。支援を受けることの多い障害者が支援者になることによって自己肯定感を高めることができた。

○ 日中サービス支援型のグループホームについて、退院促進事業の一策としているが、地域で自分の力で生活する上では、服薬管理や通院の継続等様々な課題がある。このグループホームで課題に対応できるのか。

■ 従来型のグループホームは日中活動する場を別に探す必要があったが、日中サービス支援型のグループホームの場合は、同じグループホーム内で日中のサービスも受けることができ、課題に対応できる可能性が高い。現在市内に3か所あり、今後広がることを期待している。

○ 長期入院している方には、長期入院に至った個別の課題があり、そのために退院促進、地域移行は難しいが、退院することで本人の生活の幅が広がる。本人が望む生活を適えられるようなグループホームが増えていくことを願う。

○ 市内に3か所あるということだが、制度発足から1年が経過しており、少ない印象がある。市として整備方針等はあるのか。

■ 具体的な数は定めていないが、制度発足から1年強で3か所できたことは評価している。今後さらに増えるように市としてどのような支援ができるのか検討しているところであり、支援策があればアドバイスしていただきたい。

■ 本協議会だけでなく様々なネットワーク会議がある。他会議の検討状況についても今後本協議会で適宜情報提供し、ご意見を伺う予定である。

◎ 部会等に参画する方の業種を広げたことは今回の体制の見直しの大きなポイントでもあるが、検討課題のポイントがずれる、意見を述べる機会がない、というリスクがある。それを防ぐために、事務局には事前に各部会員等へ検討課題のポイントを伝える等、意見を出しやすくする対策を期待する。また部会間の情報共有も重要である。

部会等での検討状況をイメージしやすくするため、地域課題を整理する際に使用するシート等があれば、次回資料提供してほしい。

他市においても地域課題を検討している会議等がある。事務局は情報を収集し、本協議会がより充実したものになるよう検討してほしい。

4 その他

津久井やまゆり園利用者の意思決定支援について、神奈川県共生社会推進課より再生構想の進捗状況・意思決定支援の状況等の説明があった。

5 閉 会

